

年表 秋田県農業試験場のあゆみ

西暦 年	和暦		できごと
	元号	年	
1891	明治	24	県立農事試験場を秋田市旧城内三ノ丸に創設される 農業委託試験員を選定する（各郡に配置、稲・畑作の試験実施）
1892		25	馬鈴薯、エン麦を試作する 委託試験員、魚粕試験を開始する
1893		26	大麦、小麦、ライ麦、陸稲、えんどう、菜豆、牧草を試験に加える
1894		27	農事試験場を整備する（農商務省訓令） 重過燐酸石灰施用試験を開始する 水稻に関する試験を開始する
1895		28	農事試験場処務規定が制定される 場長、稲作・畑作の2係（訓令） 農事試験場縦覧心得を告示する
1896		29	農事試験場を秋田市上中城から 河辺郡牛島町に移転する 岡山県から藎苗を購入し、県内に配布する
1897		30	豊凶考照試験を開始する 蚕業講習所設置される
1898		31	硫安、重過石、炭酸加里による三要素試験に着手する 農事試験場種苗配布規則を定める（訓令） 畑作物栽培要覧を公刊する
1899		32	畳表、綾筵製作伝習講習開催する
1900		33	短期農事講習規定を告示する 果樹、野菜、桑及び病害虫試験を加える 陸羽支場と共同で10項目にわたる耕種基準を発表する いもち病と窒素肥料及び品種に関する試験を開始する
1901		34	ボルドー液によるいもち病防除法を一般に紹介する 害虫10種を飼育し、防除対策の資として生態研究を行う
1902		35	
1903		36	家禽、豚を研究対象として加える 水稻、大小麦、ライ麦、大小豆、馬鈴薯、アブラナ、藎等の種苗を配布する
1904		37	「時局に対し、農家の実践励行すべき事項」を配布する 稲作（種類の選択、塩水選、通し苗代廃止、新苗代の設置、乾田馬耕の実施、 正条植、灌漑水の調節、早水害に対する処置、乾燥、病害虫駆除） 麦作（補肥の時期、手入れ完全収穫の時期、病害の注意） 肥料（堆肥の改良、肥料の選択・配合） 応急作物の栽培（大豆、馬鈴薯、とうもろこし、牧草） 水稻採種圃七反歩を設置する
1905		38	馬耕奨励部を設ける
1906		39	りん酸用量試験を開始する 木炭改良のため伝習生を養成する

1907		40	種苗、園芸、養畜、病虫、庶務の5係を設ける ニカメイチュウ駆除に関する試験を開始する
1908		41	
1909		42	石灰窒素の施用試験を開始する
1910		43	冷水温湯浸法による麦黒穂病予防試験を開始する
1911		44	土壌酸性調査を開始する 果樹試験を実施する
1912		45	
1913	大正	2	試験場内に農芸化学係を設置し、6係となる 品種育成事業ならびに水稻原種栽培を開始する 川尻村に果樹試験地が新設される 水稻奨励品種採用（亀ノ尾、五郎兵エ、仙台坊主、河辺糯、大場）
1914		3	県内五か所に指定果樹園を設置する 水稻奨励品種採用（関山、福島、白川、庄内、豊後） 大豆原原種育成（白莢、長月一号、秋田一号、兄一号）
1915		4	農事試験場を牛島町から寺内村八橋に移転し、 5部制となる（種苗・園芸・農芸化学・病虫・庶務） 水稻奨励品種採用（関山七号、五郎兵エ九号、福島一号、亀ノ尾一号、 庄内一号、亀ノ尾七号、河辺糯三号、同四号、仙台坊主四号、大場七号）
1916		5	土壌肥料等の依頼分析に応じる 水稻奨励品種採用（関山二号）
1917		6	水稻奨励品種採用（細稈十号、豊国七一号）
1918		7	交雑育種法によるナスの品種改良を開始する 水稻奨励品種採用（豊国三五号、短穂一七細桿）
1919		8	水稻奨励品種採用（陸羽七一号）
1920		9	裏作「れんげそう」試験を開始する 施肥標準調査を開始する
1921		10	温水直播栽培試験を開始する
1922		11	果樹、薬剤散布暦を配布し、病虫害防除指針とする 水稻奨励品種採用（日吉、陸羽四二号）
1923		12	農事試験場を旭川村泉に移転し4部1試験地となる （庶務・種芸・園芸・農芸化学・八橋果樹試験地） 水稻奨励品種採用（新大野、中稲新愛国、晩稲愛国、陸羽一三二号）
1924		13	
1925		14	
1926	昭和	元	農用機具利用促進のため、試験場備付品を農家へ貸付する 一代雑種によるナス組合せ交配を開始する
1927		2	ナス青枯病耐病性品種「秋田丸一号」を選出する
1928		3	水稻奨励品種採用（秋田一号）

1 9 2 9	4	大館陸稲育種試験地を設置し4部2試験地となる
1 9 3 0	5	稲苗腐敗病予防試験を開始する いもち病防除試験を府県連絡試験で実施する
1 9 3 1	6	根粒菌を培養し、配布開始する(38年中止)
1 9 3 2	7	大久保小麦試験地を開設し、4部3試験地となる 低設温床育苗試験を開始する
1 9 3 3	8	山内村、大湯町に馬鈴薯原種圃及び原種増殖圃を設置する 水稲奨励品種採用(秋田七号)
1 9 3 4	9	
1 9 3 5	1 0	凶作防止生保内試験地を設置し、4部4試験地となる 凶作防止試験地10ヶ所を設置する 水稲奨励品種採用 (早生愛国、奥羽一八七号、同一七二号、同一七三号、秋試二号、六日早生)
1 9 3 6	1 1	病虫部が発足し、5部4試験地となる 稲葉もぐり蠅防除試験を開始する 第二次豊凶考照試験を開始する 水稲奨励品種採用(奥羽一九一号) 試験場参観デーを開始する
1 9 3 7	1 2	
1 9 3 8	1 3	米内沢試験地を開設し、5部5試験地となる
1 9 3 9	1 4	
1 9 4 0	1 5	
1 9 4 1	1 6	発生予察事業を開始する 水稲奨励品種採用(愛子一号)
1 9 4 2	1 7	水稲奨励品種採用(奥羽一九五号)
1 9 4 3	1 8	種籾消毒剤として水銀製剤を耕種基準に組み入れる 水稲奨励品種採用(生保内一号)
1 9 4 4	1 9	水稲奨励品種採用(農林一七号)
1 9 4 5	2 0	水稲奨励品種採用(彦太郎糯)
1 9 4 6	2 1	調査部(技術浸透室)を設置し、6部5試験地となる
1 9 4 7	2 2	大館試験地を農林省大館農事改良実験所に移管し、6部4試験場となる 水稲奨励品種採用(大黒早生五号)
1 9 4 8	2 3	生保内試験地を廃止し、6部3試験場となる 水稲奨励品種採用(農林四九号、尾去沢一号)
1 9 4 9	2 4	保温折衷苗代育苗栽培法試験水稲培土栽培試験、水稲除草剤試験を開始する
1 9 5 0	2 5	試験場の内部機構を改編し、豊島原種農場を設置し、 1課7科3試験地1農場となる 水稲湛水直播栽培、立毛間直播栽培試験を開始する
1 9 5 1	2 6	大久保試験地の廃止と内部機構改編で1課8科2試験地1農場となる

		水稲奨励品種採用（信交一九〇号）
1952	27	営農試験地を発足する（牧野改良試験開始） 水稲奨励品種採用（藤坂五号、農林四一号）
1953	28	農業試験場と改称する 米内沢試験地の廃止と大館試験地再発足を含む組織改編を実施し、 1課2係（会計・庶務）3部7科経営部（経営・農機具・原種） 技術第一部（種芸・園芸）技術第二部（農芸化学・病虫）2試験地1農場となる 水稲奨励品種採用（オバコワセ）
1954	29	増田葉たばこ試験地を新設して3試験地となる 水稲ビニール畑育苗試験を開始する 冷害に関する現地試験を開始する（矢島冷害試験地～36年まで） 大館試験地を移転する（大館市東台から同市狐台へ） 水稲奨励品種採用（チョウカイ）
1955	30	大館試験地を大館分場と改称し、併せて科制を廃止し 2室（庶務・技術連絡室）4部（種芸・園芸・化学・病虫） 1分場2試験地1農場となる 水稲奨励品種採用（ハツニシキ）
1956	31	豊島原種農場を豊島分場と改称し、2分場となる 水稲奨励品種採用（こがねもち）
1957	32	八郎潟分場を開設し、3分場となる 大館分場、てん菜試験を開始する
1958	33	八橋果樹試験地を廃止し、1試験地となる 水稲の室内育苗法試験を開始する
1959	34	水稲奨励品種採用（オオトリ、改良信交）
1960	35	科制の再導入により、2室5科 （経営・水田作・園芸・土壌肥料・病虫）3分場1試験地となる
1961	36	創立70周年記念誌を発刊する 水稲奨励品種採用（ミヨシ、さわにしき）
1962	37	土壌病害検診およびパイロット防除を開始する
1963	38	農業試験場を秋田市仁井田に移転する 水稲奨励品種採用（ウゴニシキ、ヨネシロ）
1964	39	豊島分場を廃止し、畑作科・機械科を設け 1課1室7科2分場1試験地となる
1965	40	八郎潟分場を廃止、干拓科とし、8科1分場となる 水稲移植機械化に関する研究を開始する
1966	41	水稲奨励品種採用（オトメモチ） 大豆奨励品種採用（ライデン）
1967	42	バインダーならびに自脱型コンバインの試験を開始する 水稲奨励品種採用（レイメイ、フクノハナ）
1968	43	大館分場、大館市片山に移転する 部制の再編成により3部（企画管理・栽培・経営） 2課（総務・連絡調整）4係（庶務・管理・企画調整・資料広報） 8科1分場1試験地となる

1969		44	増田たばこ試験地を廃止する 水稲奨励品種採用(トヨニシキ)
1970		45	重金属汚染の防止試験を開始する 水稲奨励品種採用(キヨニシキ) 大豆奨励品種採用(ライコウ)
1971		46	水稲奨励品種採用(ササニシキ) 大豆奨励品種採用(シロセンナリ)
1972		47	化学部を設け4部9科(土壤保全を加える)となる
1973		48	花き科を設け10科となる
1974		49	園芸部を設け5部体制となる
1975		50	研究機関初の水稲1トンドりを達成する
1976		51	水稲品種科を設け11科となる 水稲奨励品種採用(アキヒカリ、やまてにしき)
1977		52	南秋田郡大潟村の八郎潟新農村建設事業団入植者訓練所跡に大潟支場を設置し、13科となる 水稲新品種育成事業を再開する
1978		53	
1979		54	粒状肥料移植同時施肥技術研究を開始する 創立88周年となる 水稲奨励品種採用(あさあけ、アキユタカ、ヒデコモチ)
1980		55	栽培部が稲作部に、科学部が環境部に、 園芸部が園芸畑作部に改称、14科となる 水稲奨励品種採用(美山錦)
1981		56	水稲奨励品種採用(アキホマレ)
1982		57	大豆奨励品種採用(スズユタカ)
1983		58	
1984		59	農試育成による水稲の新品種「あきたこまち」、 「たかねみのり」が誕生し、奨励品種として採用する
1985		60	
1986		61	バイオテクノロジーに関する試験を開始する(薬培養により稲植物体再生)
1987		62	大豆奨励品種採用(タチユタカ) 大麦奨励品種採用(ベンケイムギ)
1988		63	大潟支場廃止し大潟農場と改称、13科となる
1989	平成	元	大館分場を廃止し、大館試験地とする 水稲生育診断システム研究を開始する 大豆奨励品種採用(コスズ)
1990		2	種苗法に基づく品種登録(稲・あきた39)
1991		3	機構改革により係科制を廃止し、担当制を導入 5部2課18担当1試験地1農場となる

		創立100周年記念事業を実施する 水稲奨励品種採用(あきた39)
1992	4	不耕起移植栽培技術を開発する 農業試験場再編整備事業はじまる(基本構想策定) 種苗法に基づく品種登録(稲・吟の精) 水稲奨励品種採用(吟の精・たつこもち・きぬのはだ)
1993	5	種苗法に基づく品種登録(稲・たつこもち、稲・きぬのはだ、稲・吟の精)
1994	6	水稲耐冷性検定施設を設置する 水稲奨励品種採用(でわひかり)
1995	7	大豆奨励品種採用(リュウホウ)
1996	8	種苗法に基づく品種登録(稲・でわひかり) 水稲奨励品種採用(ひとめぼれ) 大豆認定品種採用(秋試緑1号)
1997	9	
1998	10	水稲奨励品種採用(めんこいな、秋の精)
1999	11	
2000	12	農業試験場再編整備により河辺郡雄和町へ移転し、大館試験地の廃止、 技術普及部の新設等、組織改編で6部3班19担当となる 麦奨励品種採用(小麦・ハルイブキ、ネバリゴシ、大麦・シュンライ) 大豆認定品種採用(秋試緑2号) 種苗法に基づく品種登録(稲・秋の精)
2001	13	遺伝資源開発利用センターを生物工学部として統合し 7部3班22担当となる 稲奨励品種採用(はえぬき) 水稲認定品種採用(酒造好適米・美郷錦)
2002	14	種苗法に基づく品種登録(稲・美郷錦)
2003	15	水稲奨励品種採用(酒造好適米・秋田酒こまち) 大豆奨励品種採用(おおすず) 野菜認定品種採用(メロン・秋田甘えんぼ)
2004	16	大豆認定品種採用(すずさやか) 参観デーにて、「あきたこまち」生誕20年記念談話会を開催する 種苗法に基づく品種登録(稲・秋田酒こまち、メロン・秋田甘えんぼ)
2005	17	生物工学部を廃止し、新たに原種生産部を設置し7部3班16担当となる 野菜認定品種採用(スイカ・あきた夏丸、エダマメ・あきた香り五葉)
2006	18	秋田県農林水産技術センター農業試験場となる 企画管理部を廃止し、管理室を設置し、1室6部2班15担当となる 総務班はセンター所属となる
2007	19	管理室を廃止し、企画情報部を設置し6部1班13担当となる 経営計画部はセンター企画経営室となる 水稲認定品種採用(淡雪こまち) 種苗法に基づく品種登録(スイカ・あきた夏丸、エダマメ・あきた香り五葉)
2008	20	技術普及部が農林水産部に移管し、5部1班10担当となる 水稲奨励品種採用(ゆめおぼこ) 種苗法に基づく品種登録(エダマメ・あきたさやか、稲・淡雪こまち)

2009		21	参観デー開催60回となる
2010		22	「あきたこまち」生誕25周年を迎える 園芸認定品種採用（エダマメ・あきたさやか） 種苗法に基づく品種登録（稲・ゆめおぼこ）
2011		23	農業試験場創立120周年 種苗法に基づく品種登録（トルコギキョウ・こまちホワイドレス） 水稻認定品種採用（秋田63号）
2012		24	秋田県農業試験場となる 企画管理部を廃止、総務管理室、企画経営室を設置する 2室4部4班11担当となる 水稻奨励品種採用（秋のきらめき、つぶぞろい）
2013		25	種苗法に基づく品種登録（スイカ・秋農試38号、ダイコン・秋農試39号） 園芸認定品種採用（トルコギキョウ・こまちホワイドレス）
2014		26	「あきたこまち」生誕30周年を迎える 大潟農場ならびに機械技術担当を廃止し、2室4部4班9担当となる 種苗法に基づく品種登録（トルコギキョウ・こまちグリーンドレス、 エダマメ・秋農試40号、稲・秋のきらめき、稲・つぶぞろい） 園芸認定品種採用 （スイカ・あきた夏丸アカオニ、スイカ・あきた夏丸チツチェ）
2015		27	種苗法に基づく品種登録（エダマメ・あきたほのか、稲・ぎんさん）
2016		28	種苗法に基づく品種登録 （スイカ・あきた夏丸アカオニ、スイカ・あきた夏丸チツチェ、 メロン・秋田甘えんぼ春系R、秋田甘えんぼR）
2017		29	種苗法に基づく品種登録（ダイコン・あきたおにしぼり紫）
2018		30	種苗法に基づく品種登録（ネギ・秋田はるっこ、メロン・秋田甘えんぼレッ ドR、メロン・秋田甘えんぼレッド春系R、メロン・秋田あんめグリーン、 メロン・秋田あんめレッド）
2019	令和	元	「あきたこまち」生誕35周年を迎える
2020		2	水稻奨励品種採用（サキホコレ） 種苗法に基づく品種登録 （スイカ・あきた夏丸ワッセ、スイカ・あきた夏丸クロオニ） 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症拡大により参観デーを中止する
2021		3	農業試験場創立130周年を迎える スマート農業班を設置、2室4部5班9担当となる 種苗法に基づく品種登録（ダイコン・秋田いぶりおぼこ） 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症拡大により参観デーを中止する
2022		4	秋田県農業試験場130年史を発行する 種苗法に基づく品種登録（稲・一穂積、百田） 水稻奨励品種サキホコレが本格デビューする
2023		5	水稻奨励品種採用（あきたこまちR）
2024	令和	6	チーム制が導入され、2室3部14チームとなる 「あきたこまち」生誕40周年を迎える 種苗法に基づく品種登録（ユリ・あきた清ひめ）

